

## 第6回牧之原市学校再編計画策定委員会 次第

日時：令和2年9月4日（金）午後1時30分～

場所：相良庁舎4階大会議室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 資料説明

4 議 事

○ 策定委員会の方向性のまとめについて

○ 意見交換会について

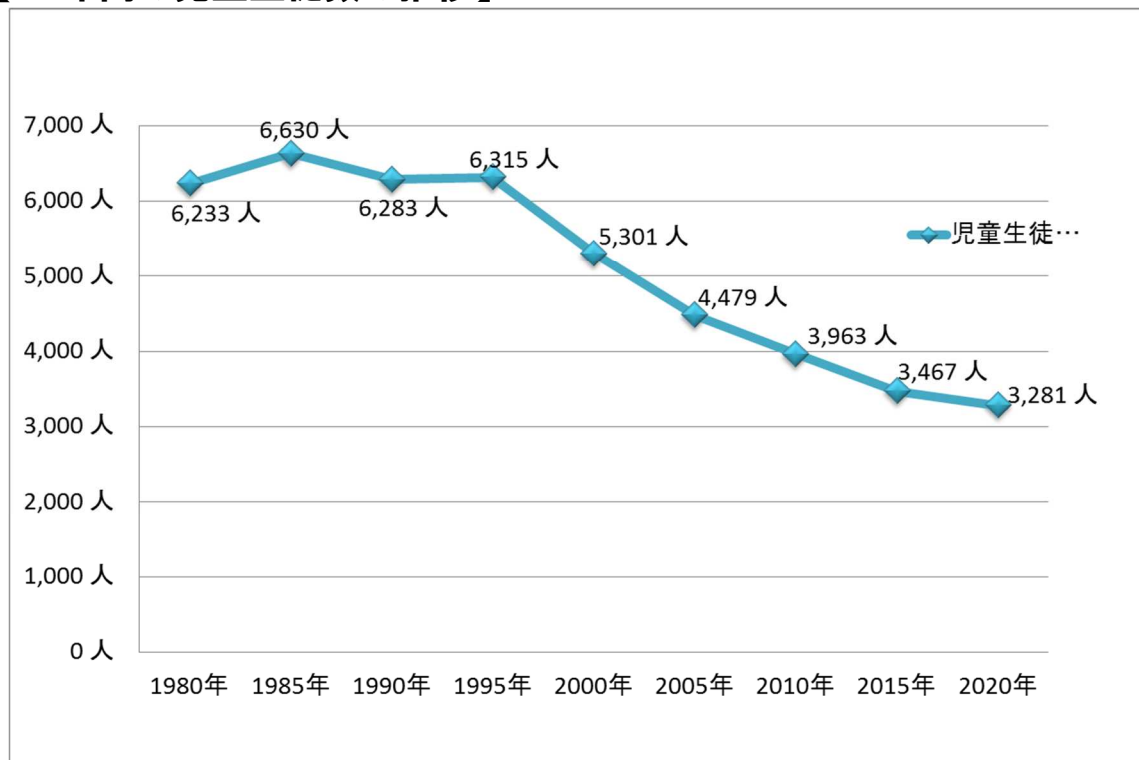
5 副市長・教育長あいさつ

6 連絡事項

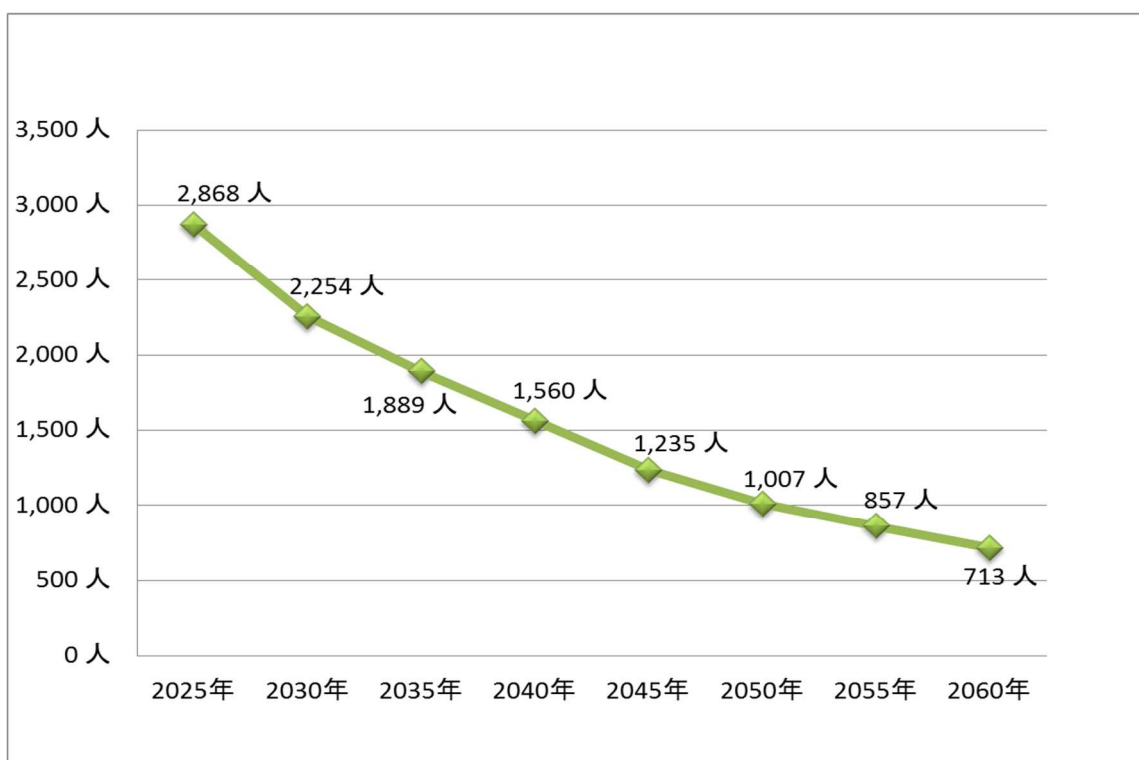
7 閉 会

## ■ 児童生徒数の推移及び推計

## 【40年間の児童生徒数の推移】



## 【5～14歳の年齢人口の推計（市独自推計基礎値）】



※令和2年8月に示された牧之原市の人口ビジョンの市独自推計基礎値により算出。  
基礎値は政策効果を反映しない場合の数字。

### 校数による児童生徒数と学年平均学級数の推計

	2020年		2030年						2040年						2050年						2060年																	
	5.1現在		推計		1校		2校 (牧之原小中学校を相良・榛原に入れた場合)		3校		推計		1校		2校 (牧之原小中学校を相良・榛原に入れた場合)		3校		推計		1校		2校 (牧之原小中学校を相良・榛原に入れた場合)		3校													
	人数	学年学級数	人数	学年学級数	人数	学年学級数	人数	学年学級数	人数	学年学級数	人数	学年学級数	人数	学年学級数	人数	学年学級数	人数	学年学級数	人数	学年学級数	人数	学年学級数	人数	学年学級数	人数	学年学級数	人数	学年学級数										
相良小学校	491	3.0	255																																			
菅山小学校	159	1.0	73																																			
萩間小学校	149	1.0	102																																			
地頭方小学校	192	1.0	129																																			
牧之原小学校	173	1.0	146	1,464	7.0																																	
川崎小学校	421	3.0	280																																			
細江小学校	416	2.0	313																																			
勝間田小学校	139	1.0	76																																			
坂部小学校	113	1.0	90																																			
相良中学校	398	4.0	319																																			
牧之原中学校	65	1.0	84	822	7.8																																	
榛原中学校	565	6.0	419																																			
学校全体 (1校)	3,281	117	2,286	2,286	65.4	1,108	33.0	878	33.0	878	28.8	1,582	1,582	48.9	767	24.6	608	24.6	608	21.0	1,022	1,022	35.7	496	18.0	393	18.0	393	15.9	723	723	26.1	351	13.5	278	13.5	278	11.7
学校全体 (2校)						1,178	32.4	1,408	32.4	1,178	32.4				815	24.3	974	24.3	815	24.3					526	18.0	629	18.0	526	18.0			372	12.6	445	12.6	372	12.6
学校全体 (3校)										230	4.5																									73	1.8	

※2020年の学年学級数は、学校で主な学級数を入れている。(例：1学年のみ2学級、他1学級→1学級) 2030年以降の学級数は1クラス35人の場合で人数割りしている。

※学校区は2校の場合は、地頭方は相良中学校区に入れ、牧之原小中学校は、学校区内を行政区で分けずに、相良・榛原のいずれかに全員が入った場合で作成している。

※3校の場合は、現在の中学校区を基本とし、地頭方は、相良中学校区に入れている。

R2.8.24 教育総務課

※学校ごとの人数は、市独自推計(基礎値)の5~14歳の年齢人口に現在の学校の児童生徒の割合を掛けて算出したもの。

※学校ごとの人数は、市独自推計(基礎値)の5~14歳の年齢人口を使用しているため、未就学児である5歳児分が入った数字となっている。

※牧之原小・中学校には、現在牧之原小中学校に通っている菊川市の子どもの率16%を加算している。



## 第 6 回学校再編計画策定委員会で 協議及び確認したいこと

令和2年9月4日 第6回学校再編計画策定委員会  
牧之原市教育委員会

# 策定委員会としての方向性をまとめる

- 意見交換会で参加者に伝えてご意見をいただけるように、今まで検討した内容をまとめる。または、今回協議する。
- 意見交換会で伝える内容は以下のものを予定。
  - ① 牧之原市望ましい教育環境のあり方に関する方針
  - ② 市の現状
  - ③ 再編計画策定委員会の経過と再編の方向性について
- 意見交換会のやり方について【資料5】

※①、②の内容については、委員長と相談します。



# 伝える方向性の項目

---

## ■ 協議事項

- ① 目指す学校像【資料3】  
⇒ これまでのみなさんの意見を概要図にしたもの
- ② 学校数の考え方  
⇒ 前回の引き続きの検討
- ③ 通学方法
- ④ 跡地利活用、施設の複合化・共有化
- ⑤ 開校までのスケジュール案【資料4】

## ■ 確認事項

- ① 学校の形態  
⇒ 一体型義務教育学校でよいか
- ② 学校の場所  
⇒ 前回示した場所としてよいか



# 目指す学校像



## 目指す学校 コンセプト

### 「みんなの学校」

- みんなで育てる「共育」 みんなで子どもを育てる・関わるみんなが育つ
- みんなが行きたくなる、みんなが活動できる

### 土台・ 基礎と なるもの

#### 安心・安全

- 災害に強い(場所と建物)
- 適正な管理ができる規模と質(限られた人とお金・後世に不安を残さない)
- 通学も安心(通学路と通学手段)
- 見える学校(目が届く・たくさんの目で見える)

## 次代を切り拓く力 = 人間力 (主体性・社会性・気付き力・コミュニケーション力等) の育成

キーワードは「つなぐ」

### 小中一貫教育

### コミュニティ・スクール

9年間のつながりある  
学びと育ち

- 小学校と中学校が同じ狙いを持ち、お互いの授業を意識することでよりよい学びにする
- 「できた・分かった」輝く子ども
- 着実なステップアップ ゆるやかな段差によるバランスのよい育ち

多様な人に触れる

- 切磋琢磨できる環境
- 一定の集団(クラス替えができる規模)の中で違う考えの人と触れ合い自分の生き方を見つける
- 異学年、地域といった多様な年齢や立場の人と触れることでさまざまな考え方を知る

いろいろな体験をする

- 授業の学びと実体験をつなぐ
- 牧之原だからできるリアル体験を大切にする

### キャリア教育

時代が変わっても教育内容、ライフスタイルに柔軟に対応できる施設・設備  
(特別教室の位置、広い廊下、仕切り等)

※50年後も使えるように

愛される施設  
つくり手と使い手側  
が一体となった施設

### 教育活動を支える施設の機能

- |                      |              |
|----------------------|--------------|
| ICT環境                | ユニバーサルデザイン   |
| 木のぬくもり               | 地域と共有できるスペース |
| 共同職員室・たくさんのスタッフがいる広さ |              |
| メンテナンスのしやすさ          | など           |

# 学校数の検討

---

## 望ましい教育環境のあり方に関する方針より

- 通いたい、通わせたいと思える魅力的な小中一貫校
- 学校の規模は1学年3学級以上を基本とし、建築後20年間は単学級とならない
- 場所は、津波浸水想定区域外
- 時代に対応した設備、市民と共有できる機能を備える



この条件から・・・

- 市内に1校か2校となった場合
  - 小学校と中学校が学校組合としてある牧之原小・中学校がそのまま存続した場合
- 以上を比較検討した





# 学校数の考え方

協議

## 案1 旧相良町・旧榛原町に1校ずつ 計2校とする。

- 長期的に見てもクラス替えができる人数が確保でき、教職員の目が行き届く規模
- 旧町単位となり、今の中学校区と同じ地域が多く地域性を大切にできる
- 子どもたちが通学するのに負担が少ない距離
- 市内1校にした場合に比べて、スクールバス等の使用台数が少なくすむ

## 案2 旧相良町・旧榛原町に1校ずつの学校と既存の牧之原小・中学校を残し3校とする。

案1の理由にプラスして…

- 牧之原小・中学校は、市都市計画のまちづくりマスタープランで富士山型のまちづくりを掲げていること、高台開発により人口が増える可能性があることから、年数を区切って様子を見て、再編か存続か判断する

# 小中一貫校の形態の違い

要件	義務教育学校	小中一貫型小・中学校(併設型)
修業年限	9年	小学校6年、中学校3年
組織	一人の校長の下、一つの教職員組織	校長と教職員組織が別々
教員免許	原則:小・中学校の両方の免許状 ⇒当分の間はどちらかでもOK	所属する学校種の免許状を持っていること
教育課程	義務教育9年間の教育目標を設定し、系統性を確保した教育課程を編成・実施できる	
教育課程の特例	一貫教育の軸となる新教科等の創設や、学年段階間・学校段階間での指導内容の入替え等、一貫教育の実施に必要な教育課程上の特例を実施できる	
標準学級数(全体)	18学級以上27学級	小・中学校それぞれ12学級以上18学級以下
施設形態	施設一体型・施設隣接型・施設分離型 いずれもOK	
通学距離	おおむね6km	およそ小学校は4km、中学校は6km

# 再編する学校の形態

確認

## ○ 施設一体型の義務教育学校とする。

- 統一した組織で目的や指導を共有しやすい
- 教科の新設や指導内容の入替え等ができる
- 施設一体型の方が教職員や児童生徒の学校間での移動や交流、連絡調整がしやすいため効果を実感する学校が多い(平成27年「小中一貫教育の成果と課題に関する調査研究」国立教育政策研究所)

現行の小中学校や小中一貫校より義務教育学校の方が

- より子どもたちや地域に合った教育をしやすい
- みんなで同じ目標を共有して教育することができる

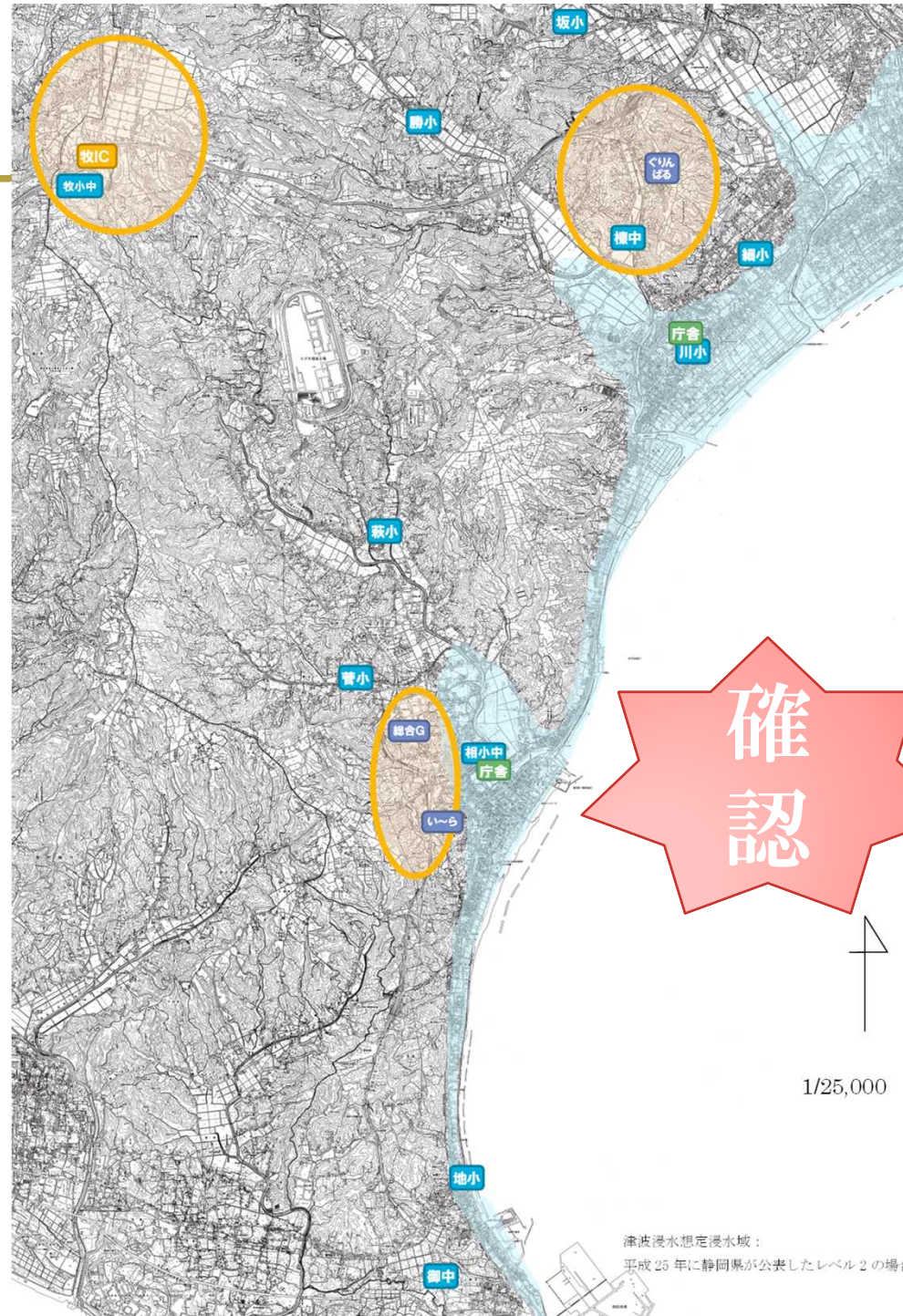
# 学校の場所

## 場所を考えたときの条件

- 津波浸水想定区域外
- 徒歩又は自転車で通うことができる子どもが多い
- スクールバス等の輸送能力
- 校舎、体育館、運動場が確保できる広さがある



- ① 相良地域  
い～らから  
相良総合グラウンド周辺
- ② 榛原地域  
榛原中学校周辺
- ③ 牧之原小・中学校周辺



# 通学方法

協議

- 徒歩、自転車、スクールバス等で通学
- 通学方法については、学年や距離を考えて、子どもが安全に通学できる方法にする

【参考】遠距離通学と考える距離

	牧之原市	国
小学生	1～2年生 2.5km以上 3年生以上 3km以上	4km以上
中学生	6km以上	



# 跡地利活用

協議

## ○ どのような活用ができるか可能性を調査する

- 校舎は建築年数が経っている学校が多いため、手を加えずに使える学校はあまりない。
- 改修するには多額の費用がかかる
- 体育館とグラウンドは使用できる。
- 使用せず残した場合でも、電気水道を有事の際に使えるようにすると年間200～250万円の維持費が掛かる。(他市の事例より)
- 地域の拠点となる場所があるか



どのような活用ができるか。施設の耐久性や民間活用も含めて専門業者等を入れて可能性の調査をする。



# 施設の複合化・共有化

協議

## 【今までの策定委員会の意見】

- 図書館、体育館、プール等学校生活に必要なものを市民と共有できる規模にして活用する
- コミュニティルーム等、地域の人が活動したり、子どもたちと交流できる場所

# 2030年までに開校する場合の最短スケジュール案



年月 項目	2021			2022			2023			2024			2025			2026			2027			2028			2029			2030					
	R 3			R 4			R 5			R 6			R 7			R 8			R 9			R 10			R 11			R 12					
	4~7	8~11	12~3	4~7	8~11	12~3	4~7	8~11	12~3	4~7	8~11	12~3	4~7	8~11	12~3	4~7	8~11	12~3	4~7	8~11	12~3	4~7	8~11	12~3	4~7	8~11	12~3	4~7	8~11	12~3			
計画・構想	●再編計画策定			周知																													
校舎建設							基本設計・実施設計						(用地取得)・造成等			建設工事																	
開校準備																			校区における開校に向けての各種検討														

●開校目標年



## 目指す学校 コンセプト

# 「みんなの学校」

- みんなで育てる「共育」 みんなで子どもを育てる・関わるみんなが育つ
- みんなが行きたくなる、みんなが活動できる

### 土台・ 基礎と なるもの

### 安心・安全

- 災害に強い(場所と建物)
- 適正な管理ができる規模と質(限られた人とお金・後世に不安を残さない)
- 通学も安心(通学路と通学手段)
- 見える学校(目が届く・たくさんの目で見える)

## 次代を切り拓く力 = 人間力 (主体性・社会性・気付く力・コミュニケーション力等) の育成

キーワードは「つなぐ」

### 小中一貫教育

9年間のつながりある  
学びと育ち

- 小学校と中学校が系統性を持ったねらいで、お互いの授業を意識することでよりよい学びにする
- 「できた・分かった」輝く子ども
- 着実なステップアップ ゆるやかな段差によるバランスのよい育ち

多様な人に触れる

- 切磋琢磨できる環境
- 一定の集団(クラス替えができる規模)の中で違う考えの人と触れ合い自分の生き方を見つける
- 異学年、地域といった多様な年齢や立場の人と触れることでさまざまな考え方をを知る

### コミュニティ・スクール

いろいろな体験をする

- 授業の学びと実体験をつなぐ
- 牧之原だからできるリアル体験を大切にする

## キャリア教育

時代が変わっても教育内容、ライフスタイルに柔軟に対応できる施設・設備

(特別教室の位置、広い廊下、仕切り等)

※50年後も使えるように

### 愛される施設

つくり手と使い手側  
が一体となった施設

教育活動を支える施設の機能

ICT環境

ユニバーサルデザイン

木のぬくもり

地域と共有できるスペース

共同職員室・たくさんのスタッフがいる広さ

メンテナンスのしやすさ

など

## 【説明】

- ① 新しい学校をどんな学校にしたいか、「目指す学校像」として「みんなの学校」。  
新しい学校は、たくさんの人が子どもたちに関わり、育てることができる。  
関わった人自身にもその関わりを通して学びがある。関わった人が共に育つ「共育」ができるようにしたい。さらに新しい学校にはみんなが行きたくなり、みんなが活動する場所がある。この2つの要素がある「みんなの学校」でありたいと考えた。
- ② 新しい学校に一番求めることは、「安心・安全」。安心・安全であることが基礎となる。  
災害に強い場所と校舎、さらには非構造体も耐震等があるものとする。子どもたちも保護者も地域の人もみんなが安心して通える・来ることができる学校とする。  
その安全が長期間保たれるように適正に管理できる規模や質とする視点も大切。  
建物だけでなく、通学や学校生活においても安全・安心なものとしたい。
- ③ どのような子どもに育てたいか。子どもたちにはこれからの変化の時代でも自分の未来を自分の力で切り拓くことができる「人間力」、「次代を切り拓く力」をつけたい。  
そのために、「キャリア教育を軸とした小中一貫教育とコミュニティ・スクール」を行い、子どもたちの9年間をつなげ、たくさんの人に出会う機会や、多くの体験を通して、子どもたちに主体性、コミュニケーション力、気付き力や学んだことと実社会を結びつけ新たな発想を生み出せるような地盤をつくっていきたい。
- ④ 取組のキーワードは「つなぐ」。子どもたちの9年間の学びと育ちをつなぐ。授業と実体験、実社会をつなぐ、人をつなぐ……。いろいろな「つなぐ」ができる学校にしたい。
- ⑤ 取組をより効果的に、やりやすくするための環境が必要。時代の変化は加速していて、学びのスタイルも変わっていく可能性がある。そのため、時代が変わってもその変化に対応できる柔軟な施設・設備とし、さらにICTやUDのような教育活動を支える機能を充実させたい。また、あらかじめメンテナンスしやすい設計としておくことで、修繕等も教育活動の妨げになることなく行えるようになる。



## ● 学校再編計画策定に向けての市民意見交換会 ●

- 日 時 : 令和2年10月 19:00~21:00 (予定)
- 会 場 : 各小学校区の公共施設、学校体育館等
- 目 的 : ①市の現状やあり方の方針を知ってもらう  
②現段階の策定委員会の方向性を伝え、参加者から意見をもらい今後の検討の参考とする。
- テーマ “子どもたちが、安心・安全でさまざまな学びができる学校にするためにどんな再編が望ましいだろう”
- 参加者 : 自治会、小中学校PTA役員、教職員、幼保育園保護者 (20~50人/回)
- 進 行 :
- 準備品 :

### ■ タイムスケジュール

時間	所要(分)	内容	担当	備考
19:00	3	開会・挨拶	教育長	集まっていたいた御礼 方針策定と再編計画策定委員会について説明
19:03	25	情報提供	島田先生	市の現状、方針の説明、策定委員会経過、方向性の説明
19:28	65	意見交換		①自己紹介をしながら、情報提供について思ったことなど ②策定委員会の方向性を踏まえて、あなたは何校に再編することが子どもたちにとってよいと思うか。理由を添えて。 ⇒グループの傾向をまとめる(1つにしなくてよい)
20:33	20	発表/まとめ		練習1分+発表2分×グループ数
20:53	3	アンケート	司会	・選択設問と自由記述 (言えなかった思いもここに書いてもらう)
20:56	3	講評/コメント	市長/教育長/委員長	
20:59	1	閉会	司会	
21:00	120			

#### 【開催するに当たって感染症対策に対応すること】

- ・人数を限定する。(自由参加にしない)。
- ・開催回数と所要時間は最小限にする。
- ・会場は広い会場とする。
- ・グループ間のスペースを広くとる。
- ・マスク着用。入口と各テーブルに消毒液を用意。
- ・飲食はしない。
- ・マイクは使用ごと消毒をする。

